

会 議 録

会 議 の 名 称	平成28年度第1回弘前市文化財審議委員会議
開 催 年 月 日	平成28年10月3日（月）
開 始 ・ 終 了 時 刻	14時00分 から 16時00分まで
開 催 場 所	岩木庁舎2階 多目的ホール
議 長 等 の 氏 名	弘前市立図書館嘱託員 福井 敏隆
出 席 者	委員長 福井 敏隆 副委員長 岡田 俊治 委 員 岩瀬 直樹 委 員 内山 淳一 委 員 小松 勇 委 員 関根 達人 委 員 瀧本 壽史 委 員 山田 巖子
欠 席 者	なし
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	文化財課長 三上 敏彦 文化財課長補佐 工藤 雅人 文化財課文化財保護係長 小石川 透 文化財課埋蔵文化財係長 岩井 浩介
関 係 人 出 席 者	なし
会 議 の 議 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織会</li> <li>・会 議 議 題               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 有形文化財（考古資料）「堂ヶ平経塚出土珠洲焼経容器及び蓋石」の指定の可否について</li> <li>(2) 史跡「堂ヶ平経塚」の指定の可否について</li> <li>(3) 有形文化財（建造物）「平川家住宅」の指定の可否について</li> <li>(4) その他 報告事項</li> </ol> </li> </ul>
会 議 結 果	別添議事録のとおり

<p>会議資料の名称</p>	<p>弘前市文化財指定申請の調査報告書（珠洲焼経容器および蓋石）  弘前市文化財指定申請書（写）（珠洲焼経容器および蓋石）  弘前市文化財指定申請の調査報告書（堂ヶ平経塚）  弘前市文化財指定申請書（写）（堂ヶ平経塚）  弘前市文化財指定申請書（写）（平川家住宅）  報告事項 『弘前の文化財』刊行事業について</p>
<p>会議内容   （ 発言者、  発言内容、  審議経過、  結論等 ）</p>	<p>別添議事録のとおり</p>

## 会議内容要旨

### 諮問第1号 有形文化財考古資料「珠洲焼経容器及び蓋石」の指定について

関根委員 経塚は、平安末期からの浄土思想により、経を土中に埋めるということが流行して、全国的に作られたもの。青森県内にも50ヶ所以上の経塚があるが、江戸時代のものばかりで、12世紀まで遡るものがなかった。鱒ヶ沢町の経容器は知られているが、奥州藤原氏の仏法による統治を考えると、もっとあってもよいと考えていた。そんな中、弘前市立博物館からの情報で、所蔵している須恵器系の焼物を実見した。結果、12世紀末の能登半島の珠洲焼であるということがわかった。全体的によく残っている。叩目もかなり古く、規模も大きくてかなりの優品。焼物としてみても、重要。蓋石は地元産の鯖石。中世では板碑にも用いられる、火砕流凝灰岩。類例として、秋田県内にもこうした容器があり、津軽地方の内国化が出羽国との強い関係性の中で進展していったことを示していると考えられる。また、中世の文献資料のない当地においては、資料として大変貴重なものであり、指定に値すると考える。

瀧本委員 経塚と経容器を個別に指定することは妥当。この時期の資料は少なく、指定しておくことが研究の土台になることから、指定についても妥当だと考える。

小松委員 叩き目の模様は何か意味があるのか。

関根委員 巻き上げて叩き締めるので、叩き目が残る。車輪か菊花に見える叩き目が、幅にして7～8cmにかけて施されているが、こうした装飾的な叩き目は、この容器の特殊性を示していると考えられる。

### 諮問第2号 史跡「堂ヶ平経塚」の指定について

関根委員 経容器については、県内でも確認できているが、経塚本体が残っているのは、堂ヶ平のみである。経塚は、一辺が10mを超える方形のもので、2方向に周溝がめぐらされている。周囲には、握り拳大から人頭大の川原石が確認でき、葺石として使われていたと考えられる。全国に経塚は色々あるが、これだけのマウンドを持つ経塚はあまりない。規模が大きく、葺石、周溝を持つのは、北上川中流域と阿賀川流域に存在しているが、数は少ない。これらは、陸奥国と出羽国、そして越後国を結ぶ交通の要所にあり、堂ヶ平も奥大道に面する交通の要所に築かれている。これらは、藤原氏による、北奥の内国化、伝説の一町笠塔婆のように、重要な施設であったと考えられる。現在は大沢町会が管理し

ているが、地区には桂清水、燈明杉、毘沙門堂など、中世には修験の寺があったとされる、古代から中世まで聖地として機能した場所である。12世紀代の経塚と経容器がセットで残ることから、津軽地方、さらには日本の歴史を考える上で重要なものですので、指定に値すると考える。

山田委員 この場所は、大沢町会が年に一度のお祭りのときにお参りに行っているなど、現在に到るまで聖地である。あのあたり一帯が大沢の人々にとって大事な場所である。

内山委員 町会は、経塚の周囲の杉を切るなど、史跡の顕在化を考えたりはしていないのか。

事務局 現段階では史跡整備までは考えていないと思う。

瀧本委員 規模的にかなり大きいものと考えて間違いはないか。

関根委員 日本で一番大きいと思われる。経塚自体はここまで大きく築く必要のないものであり、あくまでもモニュメントとして見せたいというところから大規模になっていったと考えられる。藤原氏の支配領域が明確になるように、視覚的にもわかるようにということなのだと思う。

### 諮問第3号 有形文化財建造物「平川家住宅」の指定について

福井委員長 昨年度文化財課の委託を受けて調査したことがあるので、経緯を説明する。宝暦年間に作成された「御家中屋鋪建家図」に記録のある建物で、昨年度重要文化財指定を受けた旧弘前藩諸士住宅と共に、市内最古の武家住宅のひとつである。今回、所有者から申請書が提出されたので、調査を行い、次回以降に審議を行いたいと考えている。

瀧本委員 嘉永6年の棟札があるとあるが。

福井委員長 棟札はこれしか発見されていない。建物の骨格は宝暦の建家図と大きくかわっていない。

岡田委員 写真を見ただけだが、かなり手を加えているように見える。当初の部材がどこまで残っているのか、どこまでを指定できるのか調査したい。

福井委員長 平川家住宅については、調査報告書ができてから改めて審議することにした。調査担当者は、私と、岡田委員に依頼する。

岡田委員 了解した。

※諮問第1号と第2号については、満場一致で答申。第3号は審議持越しとなった。

**報告事項 『弘前の文化財』刊行事業について**

事務局 今年度、平成21年度刊行した『弘前の文化財』のリニューアル版を刊行する。平成21年度以降指定された文化財を加えて刊行の予定。